施設完成予想図（内観）

2023年1月
開設予定

栗山駅南交流拠点施設「栗山煉瓦（れんが）創庫　くりふと」って何？

令和5年1月開設予定の栗山駅南交流拠点施設は、新町通りの再生を含む中心市街地区における諸課題の解決に向けた栗山町中心市街地都市再生整備計画（平成30年度～令和4年度）の一環として、改修工事を進めています。

7月号に引き続き、このほど策定しました本施設活用計画案の一端をお伝えします。

※写真はイメージです。

施設の公式名称と呼称（愛称）

活用計画案では、施設の公式名称を「栗山駅南交流拠点施設」、呼称（愛称）を「栗山煉瓦創庫くりふと」としています。

この施設は町民の利用はもとより「関係人口の創出」を担う場所となりますが、町内外から集まる全ての人を「接ぎ木」とし、その人たちの活動・活躍により、まちが活気づいていく様子を「栗の樹」の成長になぞらえた展開をイメージしています。

呼称（愛称）の後半部分「くりふと」は、栗山町の「栗」と、接ぎ木を意味する英語「graft＝グラフト」を掛け合わせた造語とし、覚えやすく平仮名で表現しました。また、前半部分は建物の外観イメージとして認識されやすい「煉瓦倉庫」とし、倉庫の「倉」の文字を「創る、創造する」を連想させる「創」の文字にあえて置き換えています。

人口減少の危険性と関係人口の重要性

施設が担う「関係人口の創出」がキーワードとなりますが、そもそも関係人口とは何でしょうか。

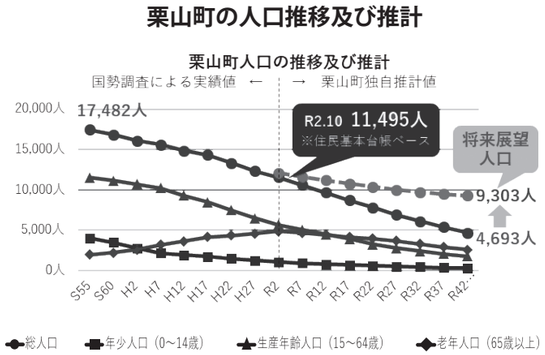
現在、我が国では総人口の維持と東京圏への一極集中を是正する地方創生が進められていますが、依然として多くの地方では地域社会の担い手が減少し、地域経済が縮小することで、更なる人口減少を加速させる負の連鎖に陥っているほか、まちの機能が低下することで地域の魅力・活力が損なわれ、生活サービスの維持が困難になっています。

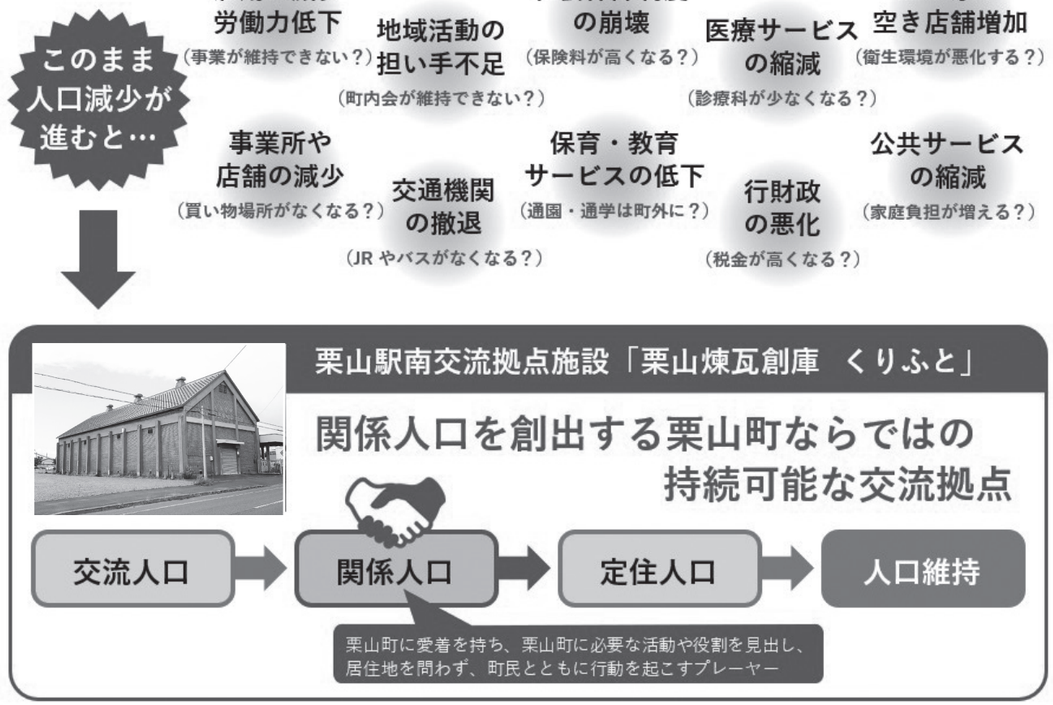
本町においても将来人口を維持すべく、さまざまな施策を講じていますが、若年層が減少し高齢層が増加する人口減少に歯止めがかからない状態が続いており、危機的な状況にあると考えられます。

そこで、地方創生の推進において注目されているのが「関係人口」という考え方です。特に都市の若者を中心に地方での活動に関わりたいという志向の高まりなどを背景に、地域と多様に関わる人々を指し、地域への強い思い入れと継続的な関わりによって興味や関心を高め、地域づくりに自ら参加する意思のある人たちです。

これまでは、買い物や観光目的などで地域へ訪れる「交流人口」のほか、地域に居住する「定住人口」の獲得に向けた施策は講じてきましたが、この間に位置する「関係人口」に対し、効果的に働きかける施策が必要となっています。

本町における関係人口を「栗山町に愛着を持ち、栗山町に必要な活動や役割を見出し、居住地を問わず町民とともに行動を起こすプレーヤー」と定義し、その人材を創出していく施設となります。





目指す将来像ともたらす効果・利益

下段の図は、施設の存在により実現させたい将来像を表したものです。横軸として3段階のフェーズに分け、フェーズ1では、施設の運営組織が戦略的なマーケティングや商品・サービス開発と合わせて情報コンテンツを制作し、来訪を促したい対象（ターゲット）に対して情報発信を行うことで、行動を喚起させて最初の来訪を促し「交流人口」を創出します。

フェーズ2では、来訪者が施設利用や町内回遊、町内関係者との交流などを通じて、段階的に地域への興味関心や愛着を増幅させながら、自発的な活動・活躍を促して「関係人口」への移行を図ります。

その結果として、フェーズ3における「関係人口」が創出され、栗山ファンとして積極的に情報発信を行ったり（インフルエンサー）、ふるさと納税を行ったり、新たな交流人口や関係人口を生み出したりすることが考えられます。また、さらなる深化によりその先の「定住人口」にもつながることも期待できます。

このような将来が実現されると、まちにはさまざまな効果や利益がもたらされます。例えば、町内に新たなイベントや行事、サークル団体、商品・サービス、店舗が生まれ、それを求めたり刺激を受けたりすることで、町民の参加・行動意欲が促されて生活が豊かになるかもしれません。また、関係人口が地域活動や就労活動に携わることで、会員減少や高齢化が進む団体、従業員や後継者不足に悩む企業・店舗における担い手、さらに、移住により定住人口となる場合においては町内会・自治会活動の担い手となるかもしれません。あるいは、関係人口自身が起業やビジネス展開をすることで、町民の新たな就労機会（雇用）が生まれるかもしれません。新たな話題が生まれ、町外者の興味関心と行動を促してまちに賑わいをもたらし、町民にとっても地域の魅力を再認識して地域への愛着が高まることも考えられます。

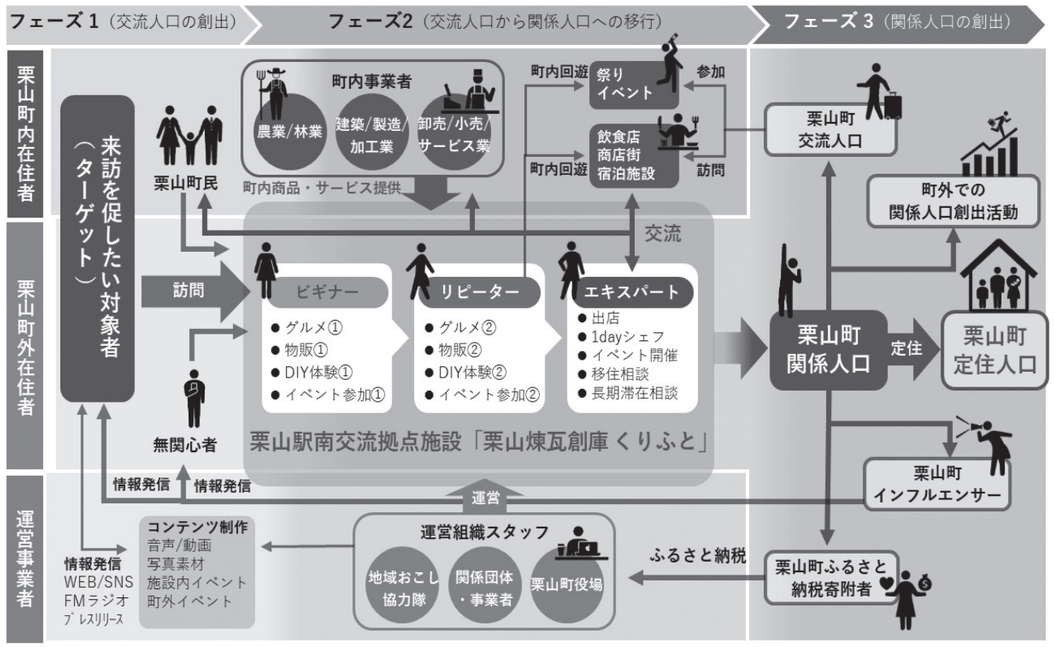
地域の未来を担う子どもたちにおいては、普段の生活の中で地域活動への参加機会が増えたり、学校や家庭内での話題が増えたりすることで、魅力と愛着のある地域であることを認知し、まちへの誇りと自信を持ちながら成長します。進学や就職のタイミングで一度は地域を離れてしまっても、ふるさと意識により自らが次なる関係人口として地域のために行動を起こしたり、Uターンして帰ってきたりなど、地域の担い手としての確実さが高まることも考えられます。

また、これまで地域を支えてきた高齢者においては、担い手を育成する側に回りながら、後継者不足により長年にわたり引き受けてきた役回りを引き継ぐことができ、他の地域活動に参加したり、趣味に時間を傾注したりすることでライフワークが充実することも考えられます。

一方、行政においても、地方自治の取り組みに関わる人材が増えることや、税収・ふるさと納税の増加により政策に充当する財源を確保できることで、行財政経営の安定化と公共サービスの維持・拡充を図ることができます。

人口減少により起こる様々な課題や影響も、徐々にではありますが、このように地域の環境が好転することで、町民一人ひとりがまちへの愛着と関心を持ち、行動変容することで、さらなる関係人口や定住人口を生み出せる未来を目指していきます。

交流拠点施設の存在により実現させたい世界（イメージ）



創造豊かな施設を目指して

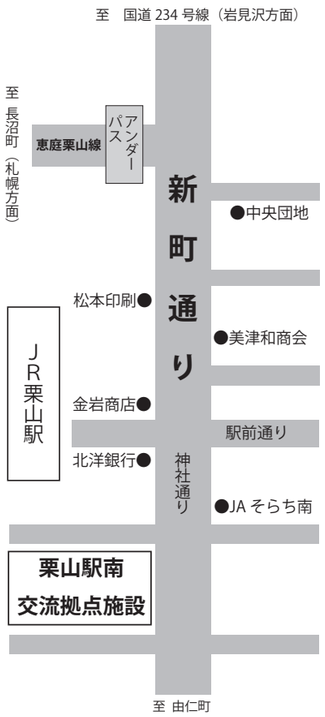
新町通り将来ビジョン
実現化委員会
委員長　高杉　文浩

札幌、岩見沢方面からの玄関口として新町通り（左地図）の将来ビジョンにおいても道路の延長となるこの施設の計画は、委員会にとっても大きな希望を持たせてくれるものと思います。「居心地のよい、まちのたまり場」「語り合いから生まれる拠点」となり、また、予期しない災害が発生しかねないご時世で、災害に関しては、1番の発信地点（コミュニティFM）になることを願っています。

定住人口を増やすのは、現状ハードルが高いと思いますが、町の過去を振り返ると色々な人を魅了する事業がたくさん取り組まれており、「この町となら関わりを持ちたい」ということを思っている人たちがきっといるはずです。

そんな過去の事業～現在までに至って今以上にこの拠点から情報を発信していただければ、関係人口が増え、「まちの応援団」が新たにできると信じています。

町の自然や風土を生かし、魅力を発信しながら次世代に継承できるよう、この施設を通じてさまざまな分野の人が出会うことで交流が生まれることを期待します。



栗山駅南交流拠点施設活用計画(案)に対する

パブリックコメントを募集します

町民皆さんのご意見をお待ちしています。

【募集期日】 8月10日㈫

【提出方法】 直接持参、郵送、FAX、電子メールのいずれか

【提出先】

町ブランド推進課観光・賑わい推進グループ
事務所：栗山町中央3丁目16番地 ☎76-7787 FAX76-7782
kankousuishin-g@town.kuriyama.hokkaido.jp

【閲覧場所】

- 役場ブランド推進課（松風3）
- 総合福祉センター「しゃるる」（朝日4）
- カルチャープラザ「Eki」（中央2）
- 図書館（中央3）
- 農村環境改善センター（角田）
- 南部公民館（継立）
- 左記提出先

※町ホームページにも掲載